第41回全日本少年サッカー大会　全国大会
出場報告書

【報告者】アバンツァーレ山形ＳＣ　監督
垂石　竜志

１．大会日程

開会式　2017 年 12 月 25 日（月）　鹿児島文化ホール

競技期間　2017 年 12 月 26 日（火）～29 日（金）

２．試合会場

鹿児島県鹿児島市の以下の会場

１次ラウンド・ラウンド 16	鹿児島ふれあいスポーツランド
準々決勝	鹿児島県立鴨池補助競技場
準決勝・決勝	鹿児島県立鴨池陸上競技場

３．参加チーム数

参加チームは、以下により選出された 48 チームにて行う。

⑴ 都道府県代表として各１チーム、計 47 チーム

⑵ 前年度優勝チーム枠として１チーム（第 40 回大会優勝チーム都道府県： 兵庫県）

４．大会形式

⑴ 1次ラウンド：出場48チームを4チームごとの12グループに分けリーグ戦を行う。なお、前年度優勝チーム枠による同都道府県出場チーム同士は、同グループでは対戦しない。

⑵ 1次ラウンドにおける順位の決定方法は、勝利3点、引分1点、敗戦0点の勝点により、勝点の多い順に決定する。なお、勝点の合計が同一の場合は、以下の項目に従い順位を決定する。

① 全試合の得失点差（総得点－総失点）

② 全試合の総得点

③ 当該チーム同士の対戦成績（勝敗）

④ ①～③の全項目において同一の場合は、抽選により決定する。

⑶ また、1次ラウンドの各グループ2位チームのうち、決勝ラウンドに進出する4チームは、以下の順序により決定する。

① グループ内での勝点合計

② グループ内での得失点差

③ グループ内での総得点数

④ ①～③の全項目において同一の場合は、抽選により決定する。

⑷ 決勝ラウンド：1次ラウンド各グループ1位チーム及び各グループ2位チームの上位4チーム計16チームによるノックアウト方式にて優勝以下第3位までを決定する。（第3位決定戦は行わない）

なお、1次ラウンド同組同士はラウンド16、準々決勝では対戦しない。

5. 試合結果・戦評

１次ラウンド　グループＢ

１次ラウンド敗退

順位	チーム名	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点
1	西宮SS(兵庫県)	9	3	0	0	12	0	+12
2	太陽宮崎SC(宮崎県)	6	2	0	1	5	7	-2
3	名古屋グランパス(愛知県)	3	1	0	2	7	5	+2
4	アバンツァーレ山形(山形県)	0	0	0	3	1	13	-12

第一戦　12 月 26 日(火)　9：30～　vs 西宮サッカースクール　(兵庫県 第１代表)

●0−6　負け

全国大会初戦。前半スタートからの相手チームの猛攻に、長い時間守備に追われた展開となった。4 番中村のミドルシュートがクロスバーをたたくシーンもあったが、得点に絡みそうなチャンスはそれのみ。前半は耐えに耐え 0-1 のスコアで終了したものの、後半は耐えきれず５失点を喫した。ボールを奪ってからパス 1～2 本目で相手チームのプレス、インターセプトの餌食となりボールロストする場面が多かった。また、県内ではなかなか味わえないプレススピードと球際の激しさで判断が失われ思うようにボールをつなげられず、苦し紛れのクリアでリスク回避する場面も多かった。初戦から全国の洗礼を受けた訳だが、プレススピードと球際の激しさは習慣だと思うので、意識のところから改善を図らなくてはならないと感じた。また、西宮 SS はボールホルダーに３人目、４人目の関わりが早く、攻撃に厚みがあったのが印象的だった。OFF の選手の関わり方、グループ戦術の理解と応用など全体的に「できる事」を増やしていかなくてはならないと感じた。

第二戦　12月26日(火)　13：15～　vs 太陽宮崎SC　(宮崎県)

★得点者：　２番　木下晴陽　　●１－２　負け

試合開始早々から、持ち味のポゼッションがはまり、チャンスの場面を多く作ることができた。2 番木下（晴）が中盤でボールを受け、そのままドリブルで突破。ペナルティーエリア付近で放ったシュートがネットを揺らし待望の先制ゴールを生み出した。前半を 1-0 でリードしたまま後半へ。身体能力の高い相手から放たれるロングボールへの対応が緩くなり失点。その後、終盤になってもペースを落とさず走り続ける相手の対応に追われ走り負け、追加点を許し 1-2 の逆転負け。悔しい敗戦となった。プレーの質では互角以上の展開を見せたものの、フィジカルで上回る相手の勢いを止めることができなかった。また、試合の終盤疲労がたまった中で、プレーのクオリティーが著しく下がったことは大きな課題。フィジカル差のあるチームを凌駕できる程の技術の高い選手の育成はもちろんだが、20 分ハーフの 40 分間、走り続けられる選手の強化、技術とフィジカルの両面と向き合って選手育成、チーム強化を図らなくてはならない。

第三戦　12月27日(土)　9：30～　vs 名古屋グランパスU-12 (愛知県)

●　0－5　負け

１次ラウンド最終戦。全国大会での１勝を目指し、試合に臨んだが、終始攻め込まれ、前半 13 本のシュートを打たれる守備に徹する展開となった。GK の金谷も懸命にシュートストップするものの、ゴール前で DF を崩され、精度の高いシュートで前半 0-3、後半 0-2 で完敗。目指していた「1 勝」ができず予選敗退となった。チームとして自信をもってチャレンジしたポゼッションだったが、名古屋グランパスのポゼッションの質の高さの前に、何もできなかったの一言。プレスをかけるも、うまく外され相手が数的優位な状況を簡単に作られてしまった。また、キック・コントロールの質の高さ、プレースピードの緩急のつけ方など、一枚も二枚も上手であった。こういったレベルの高いチームと対戦することにこそ成長のチャンスが眠っていると思う。全国大会で勝ち星を挙げられなかったことは本当に悔しいが、「1 勝」するために必要なものを感じ取れたと思う。この経験を次につなげていきたい。

6. 今大会の成果と課題

攻撃　成果：　試合の中で様々なフォーメーション（2-4-1／3-3-1/3-4-0 を採用）にトライし、選手がポジションごとの役割を意識しプレーできていたことは良かった。また状況に合わせてポジションにこだわらずゴールへ仕掛けたことで得点も生まれた。

課題：　ボールを保持するのか、スピードを上げてボールを動かすのかという、状況に合わせた判断の質の低さが課題。自分たちのやりたい事ができなくなったときに、どうやって状況を打開し、自分たちのリズムを作っていくのか。また、ボールホルダーの判断の質を上げられるようなOFF の選手の関わり方、ポジション取りも必要になる。突破やシュートまでもっていくという個人スキルの向上はもちろんだが、GK も含めた 8 人が連動し、攻め入るチャンスを作り出していかなければならない。

守備　成果：　攻められるシーンが多かったせいか、ゴール前の攻防、特に最後の最後の場面で粘り強くゴールを守れたことは今大会で際立ったと感じる。高いレベルの選手たちとマッチアップできたおかげで、厳しい状況でも集中力高く、体を張った DF ができるようになった。大会終了後の現在も、守備の意識は高く、今後更なる成長を期待していきたい。

課題：　一言でいうなれば守備の連動。１ｓｔDF のプレッシングに連動した中盤、特に逆サイドにあたる選手の守備の優先順位を理解した連動ができていなかった。実際試合の中で、相手選手（ボールホルダー）の選択肢を消し切った状況での守備は成功率が高かった。しかし、１ｓｔDF に連動しきれなかったとき、中盤にギャップを作ってしまい、そこを相手チームに攻め崩され、DF 全体が翻弄されてしまっていた。組織的に守備を行う意識を持たせなければならない。

生活面

開会式前日の 12 月 24 日から鹿児島県へ入り、現地チームと対外試合を行い調整した。県外への遠征やチームの合宿などを行っていたおかげで、長期の鹿児島滞在（4 泊 5 日）だったがコンデションを崩す選手も出ず、試合に集中することができた。宿舎での過ごし方も、食事や体のケア、ミーティングなどそれぞれの選手が意識を高く取り組んでいたのはすごく評価できた。これは日ごろの習慣のおかげだと思う。保護者、家族へ感謝したい。1 つ課題とするなら食事の摂り方について。食が細い選手は、大会終盤（特に２日目以降）にプレーのパフォーマンスが低下していった。中学生、高校生でも、地方遠征や海外遠征、長丁場での試合がある。どんな環境でも最高のプレーができ、それを継続できるように、運動のエネルギー源である「食事」は日頃から意識して食べるようにしてもらいたいと感じた。

「食べることは勝つこと」※Jーヴィレッジ　食堂「ハーフタイム」より

7.　最後に

山形県でチーム創設から１３年目。2016 年の、バーモントカップ第 26 回全日本少年フットサル大会全国大会に続き 2017 年、念願であった全日本少年サッカー大会全国大会へと出場を果たしましたが、全国の壁の前に力及びませんでした。各都道府県を代表するチームとの対戦は、選手たちはもちろん、我々指導者も多くのことを学んだと同時に、チームへ対する、日ごろの取り組み方の再考、見直しを図る最高の経験でした。この貴重な経験を自チームはもちろん、山形県全体の更なるレベルアップのために県内の各チームの皆様へ情報の発信と共有を図っていきたいと思います。

最後になってしまいますが、今回の全国大会出場にあたり、読売新聞社様、YBC 山形放送局様、マクドナルド山形やよい町店様、山形県サッカー協会様、山形地区四種員会様をはじめ、強化遠征や日頃よりご指導いただいております山形県内外のすべての関係者の皆様、そして、普段から選手を傍で支え、大会期間中も遠方までお越しいただき温かい声援を送り続けてくれた保護者の皆様にこの場をお借りして心より感謝・御礼を申し上げます。

今後ともアバンツァーレ山形 SC の活動にご指導ご鞭撻を賜ります様何卒宜しくお願い申し上げます。

「全国大会へ出場して」

～アバンツァーレ山形 SC 出場選手の作文～

アバンツァーレ山形SC　背番号　1

稲葉　駿

（いなば　しゅん）

山形市立　第六小学校 ６年生

全国大会をふり返って

一番　稲葉　駿

12月25日～29日まで鹿児島県で全日本少年サッカー大会全国大会がありました。開会式は鹿児島文化ホールで行われました。ぼくはものすごく緊張しました。

大きなスクリーンには、全国の代表チームのグループ紹介があり、サッカー日本代表の長谷部誠さんや、元サッカー日本代表の城彰二さんがぼく達を応援してくれて、ものすごく励みになりました。

ぼく達のグループは、Bグループで西宮SS、太陽宮崎SC、名古屋グランパスでした。

一試合目は、西宮SSと戦いました。0対6で負けてしまいました。体を張ってパスをまわしてすごく強いチームだなぁと思いました。

二試合目は、太陽宮崎SCと戦いました。ぼく達は、一点を入れ先制点を取りました。勝てるかなぁと思いましたが、後半は、走り負け、チーム内での声もなくなり逆点され1対2で負けました。

三試合目は名古屋グランパスと戦いました。0対5で負けてしまいました。パスをつなぐのが上手でぼくたちもマネしていきたいなぁと思いました。

全国大会を経験して、全国のレベルの高さを感じた事、思ってもみなかった事が起きる事を感じました。

この大会で味わった経験を後はいたちに教えて行きレベルアップしていきたいです。また、全国で一勝もできなかった悔しさをバネにしてこれからの練習をがんばり、中学校では公式戦に出れるようにがんばっていきます。

応援してくださった人々、一緒に練習してきたアバンの仲間、共に戦ってきた仲間、支えてくれた家族、親せき、友達、アバンの歴史を作ってくれた先ぱいたち、対戦チームの人々、貴重な経験を作ってくれたコーチ、一生忘れません。ありがとうございました。

アバンツァーレ山形SC　背番号　２

木下　晴陽

（きのした　はる）

寒河江市立　寒河江小学校 ６年生

全国大会で感じたこと

２番　木下　晴陽

ぼくはこの全国大会で、山形県代表としての自覚と責任をしっかりと持ち試合に望んだ。ぼく達が戦う三チームがすごく強く、しっかりと考えて、プレーしないといけない。

そして、一試目が始まった。対戦相手は兵庫県代表の西宮ＳＳ。トップの十一番がドリブルで仕かけてきて、テクニックがあり、何回も抜かれてしまった。この時に感じたことは、足を出さずに、がまんをして「ここだ」と思った時に体を入れてボールを取る。これをしっかりと意識していかないとこれからの試合でトップチームと戦えない。

次の試合は、宮崎県代表の大陽宮崎ＳＯ。この試合で感じたことは、カウンターを狙ってくるから切り替えが大事。前半の最後の方にセンターラインぐらいのところでボールを受けて、ドリブルをして、点を取ることができた。この時は、すごくうれしかった。でもこの得点は、自分だけでなくみんなの得点でもある。これを忘れてはいけない。

そして全国大会の予選リーグの最後の試合。愛知県代表の名古屋グランパス。このチームは、ポゼッションしてくる。二十番の人がテクニックがあるから、注意しないといけない。試合が始まり、パスをつないでくる相手に自分は何もできなかった。この試合だけではないが、チームワークというのがすごく大事だと感じた。予選リーグで、一勝もできなかったのが自分としてもチームとしてもくやしかった。

この全国大会で、ぼくは強いチームはミスが少なく、弱いチームはミスが多いということに気づいた。ぼくはミスが多いから、これから、「仲間を大事にする」「仲間の状況を伝える」「やり切る」というこの三つを必ずやり、栃木遠征まで、しっかりと修正して、強くなりたいと思う。そして、このくやしさを絶対に忘れない。

アバンツァーレ山形SC　背番号　3

髙橋　優亜

（たかはし　ゆうあ）

東根市立　大富小学校 ５年生

いい経験だった全国大会

3番　髙橋　優亜

ぼくは、初めて全日本少年サッカー大会決勝大会に出て感じた事は、基本的な、技術が他の県と、違うと感じました。それは、ボールのタッチ、スピード、が一番ちがう所に気付きました。あとは、チームで声をかけ合う所もちがうと思いました。ぼくがすぐにできる所は、チーム内で声をかけ合う事ができる所だと思い、ミーティングなどに、話をしました。あとは、弁当の時などの時間でも、修正点などの話をしていました。すぐに取り組みをなえれる事はすぐに、実行できた事はよかったです。プレー的な部分を見るとコントロールが相手のチームはうまかったです。どういう所がうまいかと言うと周りの事をいつも見ていて、人のいない所にボールコントロールをしていた所です。あとは、たまぎわの強さがちがってました。こういういい経験ができて、とても勉強になりました。

ぼくは、今から6年生になるので、一年後経験したことを、いかして県で優勝して、全国大会に出場することを目標にがんばります。そのためには、チームで声をかけ合う事と、チームで基本的な技術を身につけこれからの練習に取り組んでいきたいです。

そのためには、体づくり、体調管理をきちんとして、目標を達成できるように、考えて練習したいです。全国大会で学んだ事を実行できるように、チーム全員で、がんばりきります。

アバンツァーレ山形SC　背番号　４

中村　圭介

（なかむら　けいすけ）

山形市立　第一小学校 ６年生

全国大会に行っての感想

４番　６年　中村　圭介

ぼくはこの大会に行っていろんなことを学びました。そして学んだことをこれからのサッカーにつなげていきたいと思います。

この大会では、相手といろいろな差がありました。テクニック、パススピード、体の強さ、チームワーク、などいろいろなところがありました。ぼくは、ポジションがDFなので、相手に負けない体の強さ、パスの成功率を上げる。相手にさわられないパススピードなどを意識して練習にとりくみ、中学生につなげていきたいと思います。テクニックの部分では、自分でおぼえたフェイントなどを、積極的につかっていき、ボールタッチの練習などをして、レベルを上げていきたいです。

チームワークでは、残り３ヶ月という短かい期間ですが、仲間の事を、思ってサッカーをして、卒業の時は、すこしでも多く笑って、チームのみんなと卒業できるようにしたいです。この大会では、西宮、太陽宮崎、名古屋グランパスの３チームと同じブロックになりました。西宮はみんな個々の力が強く、特に11番は上手で止められず点を取られました。太陽宮崎は、個々の力はあまり強くなかったけど、チームワークがよく、一点られても、モチベーションを下げず、仲間思いのチームでした。名古屋グランパスも個々の力が強く、一人一人がれんどうしてプレーしていました。いまは、勝てないけれど、この３ヶ月間差を少しでも縮め中学生で、何かの時があったら、負けない用にしたいです。この経験を中学生でのサッカーにつなげて、がんばっていきたいと思います。またいつもおくりむかえをしてくれている親や応えんしてくれている人のきたいにもこたえるためにもがんばっていきたいです。

アバンツァーレ山形SC　背番号　５

井上　光士

（いのいうえ　らいと）

東根市立　大森小学校 ５年生

全国大会で学んだこと

５番　井上　光士

ぼくは、この全国大会で学んだことは、多くありました。そのなかでも、この二つが心に残っています。

一つ目は、体の強さと技術の高さです。これまでの県大会では、チームメイトは、相手とのせりあいにかつことがたくさんありました。しかし、この全国大会では、相手の方がレベルは高く、ボールをとられてしまうことが多くありました。ぼくのようにせの小さい人でも、いいわけをせずに、せの高い人に体をあててボールをとっていました。なので、ぼくもせの高い人にでも体をあて、ボールをとれるように練習からいしきしたいです。そして、全国は技術も高く、キックの精度、ドリブルのフェイント、シュートの精度がとても高いレベルでした。「名古屋グランパス」は、遠くからもすきがあればシュートをうってきました。そしてその一本一本のシュートカ、シュートの精度が高かったです。西宮のユーナーキッカーの左足の精度が高く、すごくあわせやすいボールだと思いました。ぼくもこのようなプレーが出来るように、自主トレーニングで練習してみたいと思います。

二つ目は、声かけです。ぼくのチームは、一点とられると、落ちこんでしまい、声がからなくなってしまいました。でも他のチームは、あきらめず、逆転をねらい、声をかけてはげましていました。ぼくのチームもベンチからもピッチに立っている人も、声をかけて、勝利をめざせるチームになりたいです。

ぼくは、この全国大会で、全国のかべとも、とごかくにたたかえるように、日々の練習を大切にして、もっと強く、全国でも通用する選手とチームを目指したいです。そして、これまでぼくを支えてくれた人に感謝して、今年も全国で戦えるようにがんばります。

アバンツァーレ山形SC　背番号　6

三浦　圭太

（みうら　けいた）

東根市立　東郷小学校 ５年生

全国大会で学んだこと

6番　五年　三浦　圭太

ぼくは、宮崎県代表太陽宮崎SCと愛知県代表、名古屋グランパスの試合にでました。相手チームの選手は、個人技があり、よせのはやさ、ミスの少なさがすごいなと思いました。

その中でもぼくは、4つのことを学びました

一つ目は、攻守のきりかえです。

攻守のきりかえは、どこのチームもすごく早かったです。ぼくは、攻守のきりかえが、あまりはやくないので、はやくできるように意しきしようと思います。

2つ目は、しゅんじの判断です。じょうきょうに応じたプレーをして一つ一つプレーをはやくすることです。

3つ目は、ゴールです。つねにゴールをねらってゴール前では、にげずに勝負する。ぼくは、ゴール前でパスを選たくしてしまい後悔しているのでそう思いました。

4つ目は、声がけです。アバンツァーレの課題であった声がけがあまりできていなかったので、意識して声がけをすることが大切だと思いました。

今年は、ぼくは、6年生になります。全国でプレーできた経験を生かして今年もアバンツァーレを山形県で優勝させて、もう一度全国大会に行きます。

日々の練習から、全国レベルを意識して努力していきたいです。

アバンツァーレ山形SC　背番号　7　　★主将★

手塚　琉惺

（てづか　りゅうせい）

山形市立　金井小学校 ６年生

念願の全国大会

七番　手塚　琉惺

十二月二十四日～十二月二十八日まで、全日本少年サッカー大会の全国大会に行きました。

学んだことは、大きく分けて二つあります。一つ目は、強豪チームは試合中ゴールキックなどの準備中に、仲間の選手と、もっとおれがボールを持った時にこうしてなど指示や声をかけ合っていました。自分はハーフタイムの時にしか細かい声がけが出来ていなかったので、今後はもっと試合中にも声かけようと強く思いました。二つ目は、気持ちです。自分達は点を決められたりすると、気持ちが弱くなってしまってその後に追加点などを決められてしまったけど、他のチームは、点を決められても、声をかけて気持ちを励まし合っていたので、キャプテンとして、点を決められても、声を出して、チームの気持ちを上げていかないと実感しました。

この大会で全国との差を痛感しました。体の入れ方、声のかけ方、個人技、準備の仕方、生活面では、常にサッカーについて声をかけていて、さまざまな所で差が生まれていました。全国とのレベルを少しでも縮められるように頑張り、全国レベルを基準としてこれからの練習に励みたいです。

もっともっと声をかけていき、僕は人よりも体が小さいので、ご飯をたくさん食べ体や体幹を強くしていくように、日々努力していきたいです。その時だけやってもの成果はすぐ出てこないので、継続して、徐々に力をつけていきたいです。全国のレベルで自分のドリブルが通用しなかったので、今以上にドリブルを練習しボールを失なわないようにしていきたいです。体の入れ方のコツをまだつかみきれてないので、練習でも体の入れ方をマスターしていきたいです。

今後のサッカーに生かしていきたいです。

アバンツァーレ山形SC　背番号　8

庄司　謙介

（しょうじ　けんすけ）

山形市立　桜田小学校 ６年生

全国大会の経験

背番号8　庄司　謙介

ぼくたちは二十日から二十七日にかけて児島県で全国大会にいきました。ぼくたちのグループは昨年優勝都道府県を勝ちぬいた、西宮SSやJクラブの名古屋グランパスなどがいて予選を勝ちぬくのはきびしかったです。それでもぼくたちは今までやってきたことはっきしましたが結果は全敗でした。ぼくは他のチームと生活面や試合中でぼくたちとすごく差がありました。

一つは整理整とんでした。ぼくたちは試合する場所にいくときなど服をぐちゃぐちゃにしていたりベンチのときなどみんなのボールや水とうを確かめなかったりしていましたが他のチームは早くベンチにきてつねにきれいになっていました。整理は心がければできることなので心がけていきたいです。

もう一つは試合の中でした。小学生は40分間ですがその40分間相手チームは集中を切らさずにやっていました。ぼくは最後まで走りきれず最後のFKなども外してしまいました。フィジカルも強かったです。同じぐらいの身長でも体を強くいれてボールをうばっていました。これは体のいれかたの技術がありましたがそれよりぜったい勝つという気持ちが相手の方が高かったからだと思います。アップのときも他のチームからすごく声がきこえてきました。なのでこれからぼくは勝つという気持ぢで戦っていきたいです。

ぼくはもう卒業までろケ月しかありません。そのろケ月が人で少しでも全国との差をちぢめて卒業できるように日ごろから練習がんばっていきたいです。

アバンツァーレ山形SC　背番号　９

木下　太陽

（きのした　あさひ）

寒河江市立　寒河江小学校 ６年生

全国との差

九番　木下　太陽

ぼくは、この全国大会でたくさん学んでくることができました。試合の結果は、良くなかったけど、ぼくたちのチームの課題も見つかりました。それに全国との差も知ることができました。その差は、ミスの差だと感じました。勝ち上がっていくチームはミスが少なく一回の攻撃でシュートまで持ちこんでいました。それは一人一人の実力でもあり、チームみんなで声かけをしてれんけいをとっているから出来ると思いました。ぼくたちのチームも練習から声をかけて、チームプレーを高めていきたいです。

自分自身の課題も見つけました。ぼくは、一番前のポジションをしました。起点にならないといけないのに全然ボールを受けれなくつなげられなく役目を果たせませんでした。しかし、強いチームの選手は相手のアプローチを感じてボールをとられずキープしてボールをつなげていたからぼくももっと周りを観てプレーして、しっかり役目を果たせるようにしたいです。

そして、試合ではないところの過ごし方も全国大会で感じました。整理整とんが出来ていなくてそのだらしないところがプレーに出てしまいました。だから整理整とんをしっかりして、試合で自分のベストを出せるようにしたいです。それに、整理整とんをすることによって、必要・不必要の判断力、決断力が高められ、全体を観る力を養いサッカーに必要なことがみかけれるので意識を高く持ってやっていきたいです。

ぼくたちは、全国とのレベルを全体で感じてきました。この経験を生かしてこれから、一回一回のプレーを大事に、集中して練習をしていき、レベルアップできるようにがんばりたいです。

アバンツァーレ山形SC　背番号　10

植松　駿太

（うえまつ　しゅんた）

東根市立　大富小学校 ６年生

全国大会で改めて感じたこと

一〇番　植松　駿太

ぼくは、五年生の時にバーモントカップ全国大会に出場し、全国のレベルがどれだけ高いかを知っていたし、一勝も予選突破もできなかったので今回こそは一勝、予選突破を目標に練習をがんばってきました。

ぼく達のグループBは強いチームがそろっていました。初戦は西宮SSと戦いました。相手にサイドで完全にくずされてしまい、パスもカットされてトップとしてのチャンスを生かせず悔しい試合になってしまいました。

二試合目は、太陽宮崎SC戦で、一一二と負けてしまいましたが、一番自分達らしいサッカーができていたのかなと思いました。常に先手を打つ事にこだわり戦ったけど球際の弱さも出てしまい、ぼくがもっとしつこく勝負をしかけていれば良かったなと思いました。

次の日の三試合目は絶対に勝ちたいという気持ちで名古屋グランパスと戦いました。結果は〇ー五で完敗でした。完全にポゼッションでくずされていたので判断ミスをすれば失点してしまうとてもきん張感のある試合でした。一人一人の個のレベル、質がとても高くぼくのレベルはまだまだだなと感じる試合になりました。

ぼくは、県大会で七得点を決めましたがこの全国大会ではフレンドリーでしか点を決められずとても悔しい思いました。でも負けた試合からもたくさんのことを学ぶことができました。全国大会に出場したからこそ色々な経験ができたと思いました。

今後の目標は、全国大会で学んだことを生かして練習にしっかり取り組み、全国との差を少しでも縮められるようにガンバっていきたいです。コーチやお父さんやお母さんサポートしてくれるみんなに感謝しながらサッカーを続けていきたいと思いました。

アバンツァーレ山形SC　背番号　11

小形　気吹

（おがた　いぶき）

山形市立　滝山小学校 ６年生

全国大会を通して

十一番　小形　気吹

昨年十二月二十六日から二十九日まで開さいされた全国大会に山形県代表として出場してきました。チーム目標はまず一勝を山形へ持って帰る事、個人目標は得点をとる事で大会にのぞみました。しかし結果は三敗で予選敗退し、自分も一点もとる事ができませんでした。とてもくやしかったです。

全国の強いチームと戦って感じたのは、まずチーム全体が連動して点を取りに来た事です。視野も広く体を上手く使ってボールをキープし、全員で大きな声をかけ合いながらしっかりシュートまでもってきていました。特にキープをする時は足裏やアウトサイドなど色いろな場所を使って取られないようにしながらタイミングを外してパスやシュートにつなげていました。やっぱりぼく達よりも点を取る気持ちや試合に勝つという気持ちが強いんだと感じました。

試合には負けてしまいましたが、予選リーグ最後の名古屋グランパスエイト戦では、チーム全体で守備をする事ができたので、今までやってきた成果を出せたと思います。全国大会という大きな舞台に立つことができたのも大切なチームメイトやコーチ、自分を支えてくれた家族、今まで戦ってくれた相手のおかげだと思います。感謝の気持ちを忘れずプレーしていきたいと思いました。

鹿児島で勝てなかったこと自分が点を取れなかった事をただくやしいだけで終わらせないようにこれからもしっかり練習していきます。

アバンツァーレ山形SC　背番号　12

金谷　永煌

（かなや　とき）

村山市立　楯岡小学校 ６年生

「全国大会での戦い」　金谷　永煌

ぼくたちアバンツァーレ山形SCは、山形県の百十一チームの代表として、全日本少年サッカー大会の全国大会に出場してきました。山形県でつうようしたけれど、全国大会ではつうようしませんでした。全国大会では、とても大きい選手などがたくさんいました。それに、テクニックを持つ選手、パスが上手な選手、足が速い選手、体が強い選手が集まりポジショニングがとても良いので、特技を、パフォーマンスが出ていました。それに、チームとのれんけいが、とれていて、チームワークがすごかったです。声がけを自分たちが、してても、レベルが高く負けていました。一試合目西宮と戦がいました。強いチームと戦かって弱点が見えてきました。そこを直していこうと思いました。太陽宮ぎきとの試合では、チームでの初得点では、とてもうれしかったです。開会式でリスペクトせんげんがありました。リスペクトもできてよかったです。

名古屋グランパスとの試合では、「ポゼッション」でくずされ、完敗してしまいました。ですが、ぼくたちは、最高のパフォーマンスができたと思いました。もっとも、とレベルをあげてプレーをするのが今後の目標です。そうしてプレーしてプロサッカー選手になり日本代表になりたいです。そうして活やくして、また全国大会で戦かった人たちと、戦いプレーして、自分の高みを目指し、どんどんレベルアップして、強くなっていきます。

アバンツァーレ山形SC　背番号　14

山口　優吾

（やまぐち　ゆうご）

山形市立　第一小学校 ６年生

これからの目標

背番号14　山口　優吾

ぼくは、全国大会という最高の場所でサッカーをして、気づいたこと、出来たこと、そしてこれからの目標を見つけました。

気づいたことは、強いチームと試合して、比べると、パスが弱くインターセプトされて、それにより点数が入らなかったのだと思います。ですが出来たこともありました、一試合目のミーティングで最後にだんだん声が小さくなった、ディフェンスのとき一発でいったなどのことが出ました。むかし最後の試合はチーム全体で声をかけ合いましたぼくが試合にでたときは一発でいかずついていってボールをとることができました。

最後にこれからの目標です。ぼくは、この全国大会に行って、よくなった場所とこれからなおす場所が見つかりました。よくなった場所は、これからもっとのばして絶対にどこにも負けないぐらい強くしたいです、これからなおす所は全国大会に行って分かったのでなおして出来るようにして、弱点をなくしていきたいです。

最後にぼくはこの、アバンツァーレ山形に入って本当によかったです。みんなチーム一丸となり支えあいながら戦っていて、ぼくも支えられたこともあって本当にいいチームでぼくはサッカーを出来てとてもうれしいです。次の目標は、この全国大会に行って感じたことをこれからなおしていき次はフットサルの全国大会にこのチームで行って、山形は強いというイメージにしてきたいです。

アバンツァーレ山形SC　背番号　15

佐藤　一斗

（さとう　いっと）

村山市立　楯岡小学校 ６年生

全国との差

背番号15　佐藤　一斗

ぼくは、山形県代表として全日本少年サッカー大会にはじめて出場しました。全国では、いろいろなつよいチームがありました。全国大会で色々なことに気づき学びました。

ぼくがその中で気づいたことは、強いチームと弱いチームの声がけの差に気づきました。なぜなら弱チームは、点をきめられたらすぐあきらめていて声がけが少く悪い空気感になっていたけど、強いチームは、点がきめられてもみんなが声をかけてはげましていてあきらめないで勝利にむかっていた。ぼくのチームも、一日目は、点がきめられたら何人かの人があきらめていて声がけが少かった。でも二日目は、一日目とちがって点がない人ぼとられてもみんなが、「とりかえそう」と、いう気持をもって全員が声をかけてはげましていた。ベンチの人も声をかけてスタメンの人のサポートをしていた。この強いチームと弱いチームの声がけの差を縮めるために、一人一人がいつもの練習から声をかけて「やってやろう」と、いう気持をもっていつもの練習をし人けんにとりくめば、全国の差がちじまるとぼくは思いました。ぼくは、声がけの差いがいにもいろいろな全国と差のことなどを学びました。ぼくは、それを山形県のいろいろな人に気づいたことと学んだをひろめて、山形県のサッカーのレベルをすこしでもあげて、いろいろなチームが、全日本少年サッカーにでて全国大会のきびしさを学ぶんでほしいです。

ようこそ鹿児島へ

ようこそ 鹿児島市へ
JAPAN U-12 全日本少年サッカー大会
鹿児島市おもてなし実行委員会

名古屋グランパス
アバンファーレ山形

5
中町ベルク

第41回 全日本少年サッカー大会
決勝大会出場 都道府県代表48チーム
YKK
kao
日清製粉グループ
日清オイリオ
北海道 北海道コンサドーレ札幌
青森県 リベロ津軽SC
岩手県 MIRUMAE・FC
宮城県 ACジュニオール
秋田県 本荘南SSS
山形県 アバンファーレ山形
福島県 アストロンFC
茨城県 鹿島アントラーズつくば
栃木県 栃木SC
群馬県 バレイストラ
埼玉県
千葉県
新潟県 アルビレックス新潟
富山県 水橋FC
石川県 リオペードラ加賀FC
福井県 大虫SSS
静岡県 清水エスパルス
愛知県 名古屋グランパス
三重県 FCアヴェニーダソル
岐阜県 FCレスター
滋賀県 アミティエSC草津
京都府
島根県 大社SSC
岡山県 JフィールドJ津山SC
広島県 サンフレッチェ広島
山口県 SSS FC
香川県 丸亀FC
徳島県 松茂リベルテSC
愛媛県 FCゼブラ
高知県 宿毛FC
福岡県 小倉南FC
佐賀県 サガン鳥栖
長崎県
GREEN DA-KA-RA
Super Xebio
日清オイリオ
日清製粉グループ